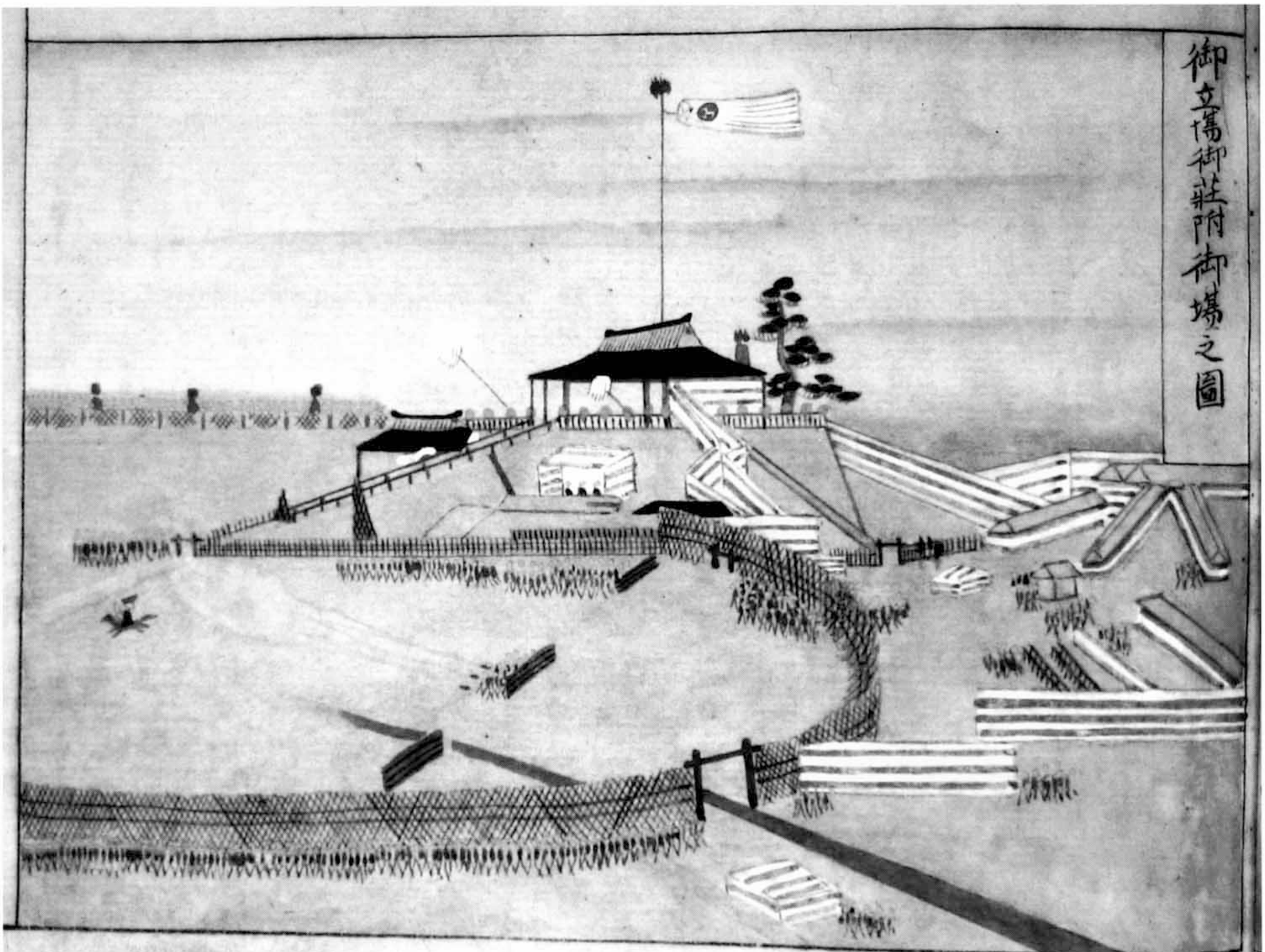
松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

郷土の歴史を明日の松戸に伝えたい
感動体験博物館

まつどミュージアム

MATSUDO MUSEUM No. 14 2006年(H18)3月



新収蔵資料展

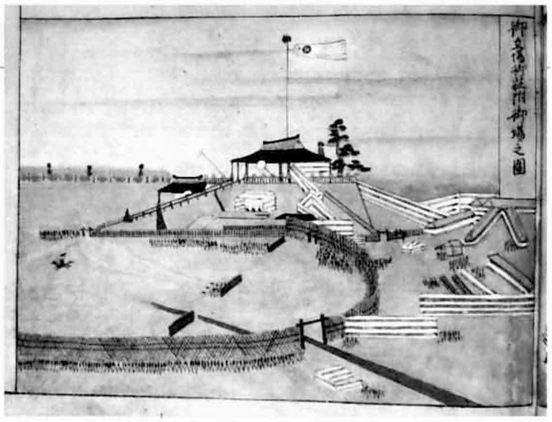
新収蔵資料展では、平成11年度から平成16年度までに博物館に寄贈していただいた資料や購入資料のうち、まだ公開されていない資料を紹介します。

H18 3/4(土)—4/9(日)

●会場 松戸市立博物館 企画展示室

嘉永己酉御狩場図絵

藤原政徳（原作者）　和写本　１冊　嘉永２年（1849）



（表紙の写真）

徳川12代将軍家慶が嘉永２年（己酉）３月に小金原で実施した大規模な狩猟、「御鹿狩」の記録のひとつ。総目録によれば、「御狩惣略記」・「御獲惣数之次第」・「御巡見御行列之事」・「新宿仮橋之図」・「金町松戸船橋之図」以下、全部で16項目の記録・絵図からなる写本で、手彩色の鮮やかな絵で御鹿狩の様子を記録している。現在の市内松飛台が将軍の「御狩場」となり、将軍が狩りの全貌を観閲する「御立場」が築かれた。

不二三十六景　下総鴻の台

歌川広重　横中判　１枚　嘉永５年（1852）

葛飾北斎とともに江戸時代を代表する浮世絵師、歌川広重が描く「鴻の台」（市川市国府台）の風景。広重には遺作で「冨士三十六景」があるが、「不二三十六景」シリーズはその７年前の作品。国府台は富士山を眺望できる景勝地で、広重は「名所江戸百景」・「冨士三十六景」でもほぼ同じ構図で描いている。遙か遠景に富士山、手前に断崖絶壁の台地と江戸川、その江戸川には帆走する川船を描くのが、広重のパターンであった。

「永久」保存

松戸市立博物館学芸員　山田 尚彦

博物館に収蔵された資料は建前としては「永久に」保存されることになっている。しかし、よく考えてみれば、100年後に現在の建物が存在するという保証はないし、そもそも100年後には当初の担当者はとっくにこの世からいなくなっているはずだから、「永久に」保管するというのは意志表明の言葉としてはあり得ても、実際にできるかどうかは定かではない。

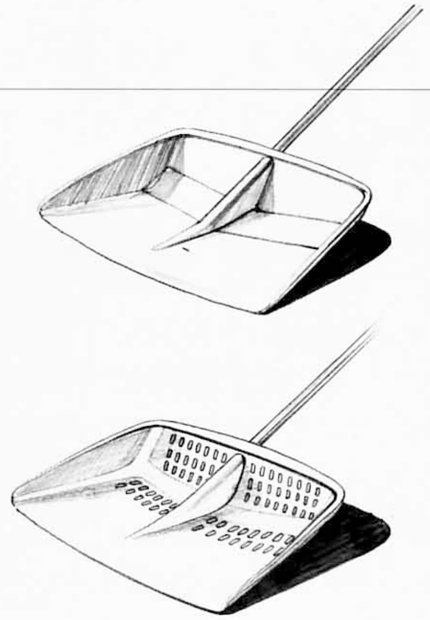
日本の和紙は通常「千年ペーパー」と呼ばれている。実年代が明らかな史料の実物が残っているからである。記録手法に関する限り、和紙という単一の素材と墨という筆記用具の組み合わせは、現在のところもっとも保存性の高い組み合わせである（虫や火事の被害は除く）。その点、後年になって登場した高分子素材などは保存性という点では未知の材料である。素材メーカーでは「劣化試験」が行われて、およそどのぐらいの速さでどの程度まで劣化が進むかを調べて予測を立てる。しかし、予測は判断材料のひとつにはなるが、和紙のように1,000年残ったという「実績」に勝るものはない。

最近になって著名なカメラメーカーが光学カメラの製造中止を決めたという。デジタルカメラの伸びが著しく、資本投下しても

角町念仏講資料

角町（かどちょう）念仏講資料は、数珠（じゅず）、鉦（かね）、灯明（とうみょう）立て、六字名号（ろくじみょうごう）（南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ））の掛け軸などの仏具や、念仏を記した念仏次第、講の収支記録などからなる。角町の念仏講は年配の女性の集まりで、月に一度持ち回りで講員の家に集まり、念仏を唱えた。また、町内で葬儀が行われるときには、頼まれて念仏を唱えることもあった。念仏講は講員の高齢化によって15年ほど前にその活動を終え、道具一式が寄贈された。

雪かきスコップのアイデアスケッチ



中村次雄氏から寄贈されたプロダクトデザインコレクションの一部。雪かき用スコップのアイデアスケッチのひとつで、最終デザインに至るまでの途中経過を示すものである。この雪かきスコップは、昭和38(1963)年の冬に北海道で発売された。従来の雪かきは木製のスコップ(こすき)を手作りするか、金属製のスコップが使われていたが、プラスチック製の雪かきスコップは軽く丈夫な点が好評で、やがて他県にも広まった。

学芸員室から

製造コストにあわないためであろう。19世紀に写真という新しい記録手法が日本に持ち込まれてからまだ200年も経っていないのに、という思いが強い。電子記録は時代の趨勢で、仕事で使う上ではその利便性は明らかであるが、保存性という点では困難がつきまとう。

博物館などの資料保存機関では、資料をhuman-readableとmachine-readableとに分けて考える。人間の眼で確かめることができるのがhuman-readableで、機械を通さないと見えないものがmachine-readableである。パソコンやビデオなどは後者にあたる。パソコン画面の「文字」やテレビ画面の「画像」は人間の眼には文字や画像のように映るが、その実態は信号やcodeの集合体で、そのままでは人間の知覚で感知することができない性質のものである。

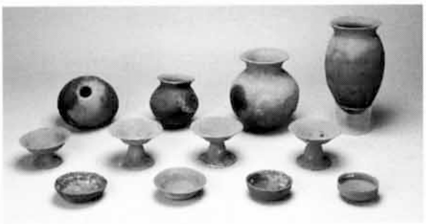
電子記録社会では、記録媒体だけでなく機器をいかに確保して、良好な条件で保管していけるかということが記録を残せるかどうかを決定してしまうことになる。以前の機器を保管しているだけでは足りず、それが正常に動いてくれなければ古い記録媒体の信号を読み取れなくなってしまうからである。さらに修理のための部品はあるのか、補修の技術を持っている技術者はいるのか、といったいくつもの条件をクリアしなければならない。どんなに優秀で強いメーカーであっても、100年後に残っている保証はない。「なにを」「どのように」残していくのかという命題は、博物館にとって古くて新しい課題であり続ける。

行事案内

展示

「新収蔵資料展」
3/4(土)～4/9(日)
内容／松戸市立博物館が平成11年以降に収集した資料のうち、これまでに公開したことのない資料約200点を展示します。
会場／企画展示室　**観覧料**／無料

館蔵資料展
「土器からみた古墳時代の交流
― 松戸市大谷口遺跡 ―」
4/29(土)～6/18(日)
内容／古墳時代後期の集落遺跡として全国的に知られている大谷口遺跡出土土器を一括展示し、松戸を中心とした古墳時代の交流を探ります。
会場／企画展示室　**観覧料**／無料



講座・講演会

連続講座　展示でみる松戸の歴史⑨
「女性雑誌と家庭生活」(市立博物館・友の会共催)
3/18(土) 午後1:00～3:00
内容／講師と常設展示を見学し、解説を聴くシリーズ第9回
講師／山田尚彦(当館学芸員)
会場／常設展示室・講堂
定員／80名(当日先着)
費用／友の会会員以外は参加費200円が必要になります。友の会会員は無料。

昔のくらし体験教室「米づくり」
4/22・5/13・6/17・8/5・9/9・9/23・12/9の各土曜日 [全7回]
(雨天の場合は翌日の日曜日に延期)
午前9:30～12:00
(4/22は午前9:30～午後2:00
12/9は午前9:30～午後3:00)
内容／代かきから収穫まで、米づくりの一連の作業を体験します。

> 4/22 勉強会・田起こし・代かき →
> 5/13 田植え → 6/17 田の草取り →
> 8/5 かかし作り → 9/9 稲刈り →
> 9/23 脱穀 → 12/9 米を竈で炊く・しめ縄づくり

講師／青木俊也(当館学芸員)
場所／実習室ほか　**費用**／無料
定員／15名(事前申込み・抽選)
対象／小学校4～6年生(全回参加できる方)
申込／往復ハガキに住所・氏名・学年・電話番号を明記して、市立博物館「米づくり」係(TEL 047-384-8272)へ。4月11日(火)必着。

こども体験教室「ロウソクをつくってみよう」
(こどもまつり協賛行事)
5/3(水)
① 午前10:00～12:00　② 午後1:00～3:00
内容／西洋ロウソクづくりを体験します。
講師／担当学芸員　**場所**／実習室　**費用**／無料
対象／小学生　**定員**／各30名(当日先着順)

「映像でみる歴史と文化」
5/3(水)・4(木)・5(金)
各日午後2:00～2:40 [全3回]
内容／映像資料で歴史を紹介します。

> 5/3「能を舞う里の四季」
> 5/4「党屋が支える祇園祭」
> 5/5「村が一つになった日」　(各40分)

会場／講堂　**定員**／80名(当日先着)　**費用**／無料

ハイビジョン　　**入場無料**
午後 ①1:15～ ②3:15～ 上映(土・日・祝は**午前11:00～も上映**)　**会場**／講堂　**費用**／無料

【3月】………………… **3/1(水)～31(金)**
〈美の回廊をゆく〉「南アジア至宝の旅2」
10分ミニシリーズ×5編(50分)
※3/18(土)は講座開催のため、午後1:15～の上映は中止します。

【4月】………………… **4/1(土)～30(日)**
〈国宝探訪〉
「デウスの御堂 ～長崎・大浦天主堂～」(29分)

【5月】………………… **5/2(火)～31(水)**
〈国宝探訪〉
「よみがえる青銅の輝き ～銅鐸～」(29分)
※5/3(水)・4(木)・5(金)は上映会開催のため、午後1:15～の上映は中止します。

エントランス展示	開催中～3/31(金)「銅製飾金具」(2～5世紀、パキスタン) 4/1(土)～4/30(日)「東京高等工芸学校の作家たち」(畑正吉、寺畑助之丞、畑正夫)
江戸時代旅装束試着体験	毎月第一日曜日【時間・詳細についてはお問い合せください】 (申込みは電話で試着体験係〈TEL 047-384-8272〉へ)
ガイドツアー(常設展示解説)	毎日午前10:00～・午後2:00～　30分間(参加者は観覧料が必要です)

利用案内

- **開館時間**　9:30～17:00(入館は16:30まで)
- **休館日**　毎週月曜日(祝日にあたるときは翌日)、館内整理日(毎月第4金曜日)、年末年始(12月28日～1月4日)
- **常設展観覧料**

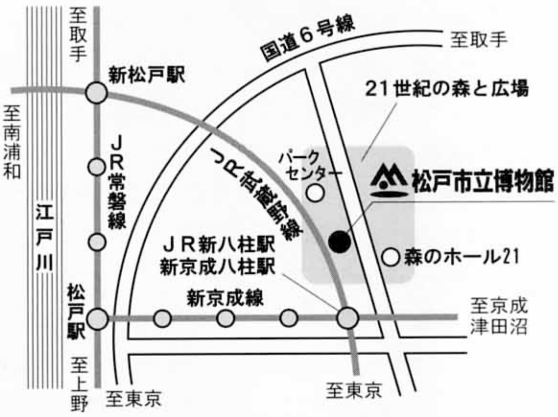
一般	高校・大学生	小・中学生
300円(240円)	150円(100円)	100円(60円)

*( )内は20名以上の団体料金。企画展・特別展は別料金となります。
***土曜日は小・中学生の観覧料無料。*市内在住で70歳以上の方は観覧料無料。**

- **交通案内**　新京成線八柱駅・JR武蔵野線 新八柱駅下車　徒歩15分
又は、新京成バス　小金原団地行「公園中央口」下車

※来館者専用の駐車場はありません。21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用下さい。

ホームページもご利用ください！　www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse



松戸市立博物館 MATSUDO MUSEUM
まつどミュージアム No.14　2006年3月1日発行　編集・発行 ©松戸市立博物館
〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671番地　TEL:047-384-8181　www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse